文化

交通協力会主催、交通新聞社共催、日本交通政策研究会協賛、交通経済研究所後援による2019年度（令和元年度）「交通図書賞」の審査が行われ、今月17日に受賞図書が決定された。

交通図書賞は「交通に関する優秀図書を選定し、広くこれを推奨することにより、交通知識の普及と交通従事者の教養の向上に資する」ことを目的として、1975年度（昭和50年度）に制定され、今年で45回目を迎えた。

今回の審査対象図書は、2018年11月1日から2019年10月31日までの1年間に、刊行・市販された運輸・交通関連図書の初版本（翻訳書、文芸書、児童書は除く）の中から出版社、著・編者の自薦図書を含めて選定した一110冊。

これを有識者や実務担当者らで構成される幹事会が、第1部「経済・経営」（28冊）、第2部「技術」（10冊）、第3部「歴史」（14冊）、第4部「一般」（58冊）に分類し、昨年9月と12月の2回にわたる事前審査を経て、各部から3冊ずつ、計12冊の受賞候補図書を選定し、審査委員に提出した。

なお、今回は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、審査の会合に代えて、各委員の評定の考え方と結果について複数回情報交換を行い、受賞図書を決定した。各候補図書に対する主な論評と選考理由は以下の通りであった。

候補図書

【第1部：経済・経営】
日本航空の破綻と再生　高巖・藤原達也・藤野真也・大塚祐一著（ミネルヴァ書房）
MaaS入門　まちづくりのためのスマートモビリティ戦略　森口将之著（学芸出版社）
観光亡国論　アレックス・カー著、清野由美著（中央公論新社）

【第2部：技術】
スマートモビリティ革命　未来型AI公共交通サービスSAVS　中島秀之・松原仁・田柳恵美子編著、スマートシティはこだてラボ＋未来シェア著（公立はこだて未来大学出版会）
新幹線実現をめざした技術開発　下前哲夫編著（成山堂書店）
鉄道を支える匠の技　曽田孝著（交通新聞社）

【第3部：歴史】
京急沿線の近現代史　小堀聡著（クロスカルチャー出版）
鉄道員と身体一帝国の労働衛生　林采成著（京都大学学術出版会）
海辺を行き交うお触れ書き　蒲触の暦る徳川情報網　水本邦彦著（吉川弘文館）

【第4部：一般】
都市鉄道の技術社会史　高嶋修一著（山川出版社）
トコトンやさしい電車の本　青田孝著（日刊工業新聞社）
誰かに教えたくなる道路のはなし　浅井建爾著（SBクリエイティブ）

受賞図書

第45回交通図書賞

第1部　経済・経営

日本航空の破綻と再生

高巖・藤原達也・藤野真也・大塚祐一著

第1部　経済・経営

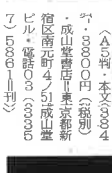
日本航空が経営破綻した原因については多くの分析がなされているが、本書は経営者のコントロールが及ぶ「内的要因」と、それが及ばない「外的要因」に区分、前者について問題点を再整理し、「モノ」機材の抜本的な更新、「カネ」市場からの自立的な資金調達」「ヒト」労働対価の更なる圧縮」こそが最優先施策であったと結論づけている。

その背景には、ゆがんだ経営哲学と組織の構造的問題があり、その改革に取り組んだ関係者の姿を通して、一連の経緯を厳密に分析・検証している。

〈A5判・本文418ページ・3800円（税別）・ミネルヴァ書房＝京都市山科区日ノ岡堤谷町1・電話075(581)5191＝刊〉

MaaS入門　まちづくりのためのスマートモビリティ戦略

森口将之著



第1部　経済・経営

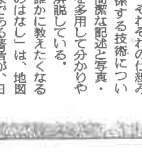
著者はさまざまな見方があるMaaSについて、社会問題解決のためのモビリティサービスであるべきと主張、ICTを用いてマイカー以外の移動をシームレス化するというMaaS本来の概念を一冊に説明し、マイカー依存からの脱却手段として提示、街づくりや地方創生の観点からMaaSを考えるべきとの論言を展開する。

さらに欧州との対比から日本の実状を分析し、交通のシームレス化を第一義とする都市型MaaSと、単一な交通機関の比重が大きい地方型MaaSの違いを明らかにしている。

〈A5判・本文200ページ・2300円（税別）・学芸出版社＝京都市下京区木津屋橋通西洞院東入・電話075(343)0811＝刊〉

新幹線実現をめざした技術開発

下前哲夫編著



第2部　技術

本書は東海道新幹線に関する技術開発を4段階に分け、終戦から建設決定までの10年余りを第1段階、建設決定から開業までの6年間を第2段階として「新幹線を生んだ技術開発」と位置づけ、その技術的意義の高さを解説している。

鉄道技術研究所の高速鉄道構想を契機として東海道新幹線の建設が具体化し、鉄道各分野の技術開発が高速鉄道実現に向けて収斂（しゅうれん）されていく過程、生み出された数々の研究手法を詳しく紹介している。

〈A5判・本文384ページ・3300円（税別）・成山堂書店＝東京都新宿区南元町4ノ51・成山堂ビル・電話03(3355)5861＝刊〉

京急沿線の近現代史

小堀聡著

第3部　歴史

京浜急行電鉄の沿線には住宅地、観光地、オフィス街、商店街、工業地帯、空港、港湾、社寺など、多様なエリアや施設が存在する。

本書はこれらの変化に富んだ地域それぞれの特徴、発展の経緯などを丹念に検証、参詣鉄道をルーツとし、京浜工業地帯の発達、三浦半島の観光振興、羽田空港アクセスの充実に貢献するなど、一昨年に、創立150周年を迎えた京浜急行電鉄の歴史に重ね合わせることで、同社および同社沿線の全く新しい近現代史をまとめ上げている。

〈A5判・本文174ページ・1800円（税別）・クロスカルチャー出版＝東京都千代田区神田猿楽町2ノ7ノ6・電話03(5577)6707＝刊〉

都市鉄道の技術社会史

高嶋修一著

第4部　一般

近年のICTの進展はめざましく、人々の暮らしやビジネスの在り方を大きく変えている。本書は取り上げる明治期から触れ前期の東京都市圏における鉄道の技術発展が、大きな社会変化をもたらしたことは想像に難くない。

具体的には、市街地化の進展を支えた馬車鉄道、人々の生活や行動様式を激変させた市街電車、高速大量輸送を可能とした省線電車など、技術開発成果の集積によって実現した新たな鉄軌道輸送が社会に与えたさまざまな影響を明らかにしている。

（四六判・本文232ページ・2500円（税別）・山川出版社＝東京都千代田区内神田1ノ13ノ13・電話03(3293)8131＝刊）

審査委員

（敬称略・順不同）

久保田雅晴　国土交通省大臣官房総括審議官
熊谷則道　鉄道総合技術研究所理事長
太田勝巳　東日本旅客鉄道常務取締役
大和田清一　元国土交通省国土交通審議官
大和田徹　交通経済研究所理事長

選考経過

第1部　経済・経営

「日本航空の破綻と再生」は、日本航空はなぜ経営破綻し、いかにして再生したのかを、組織論を軸とした膨大な調査・分析、多角的な考察によって明らかにした作品。

経営破綻の後、同社の再建を担った関係者の経験に関する論点を整理し、課題とその解決策を提示した関係者の証言が、日本のインバウンド政策に向けた考えを明らかにした作品。

「観光亡国論」は、東洋文化研究者で世界の観光業にも精通している著者が、日本のインバウンド政策に向けた考えを明らかにした作品。

「MaaS入門　まちづくりのためのスマートモビリティ戦略」は、世界初の交通関連企業「ウーバー」の元幹部で注目を集めるMaaS（Mobility as a Service）への正しい理解を促すため、発祥の経緯と現状、用語解説など基本事項を平易に分かりやすくまとめた作品。

トレンディーなビジネスモデルとして取り扱われることが多いMaaSについて、その真の姿、目的などを伝えようとしている。

「観光亡国論」は、東洋文化研究者で世界の観光業にも精通している著者が、日本のインバウンド政策に向けた考えを明らかにした作品。

「日本航空の破綻と再生」は、日本航空の破綻と再生の経緯、経営過程における監督官庁との関係などを明らかにした「日本航空の破綻と再生」と、歴史的背景、経緯の解説、現地取材に基づく具体的事例の紹介、事業性評価などを通じてMaaSの本質を捉えた「MaaS入門　まちづくりのためのスマートモビリティ戦略」の2作品が受賞図書に決定した。

第2部　技術

「スマートモビリティ革命　未来型AI公共交通サービスSAVS」については、世界初の遠隔鉄道「東海道新幹線の実現に寄与した技術開発」に焦点を当てた作品。

「新幹線実現をめざした技術開発」は、半世紀余り前に日本で誕生した世界初の遠隔鉄道「東海道新幹線の実現に寄与した技術開発」に焦点を当てた作品。

「スマートモビリティ革命」は、AIの発展によって可能となるスマートモビリティ革命で移動サービスの概念を一掃に説明し、マイカー依存からの脱却手段として提示、街づくりや地方創生の観点からMaaSを考えるべきとの論言を展開する。

さらに欧州との対比から日本の実状を分析し、交通のシームレス化を第一義とする都市型MaaSと、単一な交通機関の比重が大きい地方型MaaSの違いを明らかにしている。

「MaaS」がさらに進化したモビリティの形「未来型AI公共交通サービスSAVS」については、世界初の遠隔鉄道「東海道新幹線の実現に寄与した技術開発」に焦点を当てた作品。

車両、軌道、集電、信号保安など分野別の技術的課題や研究開発の経緯などを、当時のエンジニアの記録を随所に交えながら詳しく解説。新幹線を支える技術力の高さを総合的に理解できる。

「鉄道を支える匠の技」は、鉄道の安全・安定運行の維持に不可欠なさまざまな分野の技術を担う企業の「匠の技」を紹介した作品。

鉄道車両や地上設備などに関係する大企業や中小企業20社の取材し、各社が長年にわたって磨き上げてきた技術の特徴、研究開発の経緯や苦労話などを詳述。日本の鉄道に関する技術力の高さを総合的に理解できる。

「新幹線実現をめざした技術開発」は、半世紀余り前に日本で誕生した世界初の遠隔鉄道「東海道新幹線の実現に寄与した技術開発」に焦点を当てた作品。

車両、軌道、集電、信号保安など分野別の技術的課題や研究開発の経緯を詳述。日本の鉄道に関する技術力の高さを総合的に理解できる。

「鉄道を支える匠の技」は、鉄道の安全・安定運行の維持に不可欠なさまざまな分野の技術を担う企業の「匠の技」を紹介した作品。

鉄道車両や地上設備などに関係する大企業や中小企業20社の取材し、各社が長年にわたって磨き上げてきた技術の特徴、研究開発の経緯や苦労話などを詳述。日本の鉄道に関する技術力の高さを総合的に理解できる。

第3部　歴史

「京急沿線の近現代史」は、東京・品川から京浜工業地帯を経て三浦半島に至る京浜急行電鉄沿線の近現代史をものがたった作品。

沿線開発の歴史を時系列で紹介するのではなく、川崎・初詣・羽田・蒲田・大森・高度成長・鶴見・鮫洲・生産・日ノ出町・黄金町＝戦災など、それぞれの沿線地域を象徴するテーマを掲げ、京急線の歴史と絡めながら深く掘り下げている。

「鉄道員と身体一帝国の労働衛生」は、これまで歴史分析が行われてこなかった鉄道の労働衛生管理というテーマを扱った作品。

前半では第一次世界大戦から第2次世界大戦までの国鉄の労働衛生管理、後半では内地での手法を基にした国鉄の植民地鉄道における労働衛生管理の取り組みを詳述。

職員の健康が鉄道の円滑な運行を支えていることを、それが社会にもたらした変化について論じた作品。

タイトルの「技術社会史」は著者の造語であり、本書の目的である「技術を通じて社会の変化をうかがう」ことを表徴する、連続語。

レーキなどの車両関連機器、レールや架線などの地上設備に加え、自動改札機や空調、トイレなどの輸送サービス関連機器など、それぞれの仕組みや関係する技術について、簡潔な記述と写真・図表を多用して分かりやすく解説している。

「誰かに教えたくなる道路のはなし」は、地図研究家である著者が、日本の道路の歴史と文化、建設・舗装などのテクノロジー、道路の実状を表とする様々なデータ、高速道路に関するさまざまな謎、逸話と車の歴外または関係などについて紹介した作品。

オールカラーの誌面で写真やマップ、解説図などを豊富に使用し、日本の道路の真の面白さ、奥深さなどをコンパクトに伝えている。

審査の結果、大正期から戦前期における東京圏の鉄軌道の技術変遷と、それが社会に与えた影響を詳細に明らかにし、都市計画や行政・事業者間の交通調整の実像にも言及するなど、都市圏鉄道の発展過程を独自の視点で整理した「都市鉄道の技術社会史」が受賞図書に決定した。

第4部　一般

「トコトンやさしい電車の本」は、19世紀末から20世紀前半の東京都市圏における鉄道網や軌道などの公共交通機関の発展に寄与した技術の変遷について「トコトンやさしく」紹介した作品。

モーター、連結器、ブレーキなどの車両関連機器、レールや架線などの地上設備に加え、自動改札機や空調、トイレなどの輸送サービス関連機器など、それぞれの仕組みや関係する技術について、簡潔な記述と写真・図表を多用して分かりやすく解説している。

「トコトンやさしい電車の本」は、ドイツ・ベルリンの路面電車としての誕生に関して以来、150年近い歴史を持つ電車について「トコトンやさしく」紹介した作品。

「都市鉄道の技術社会史」は、19世紀末から20世紀前半の東京都市圏における鉄道網や軌道などの公共交通機関の発展に寄与した技術の変遷について、それが社会にもたらした変化について論じた作品。

「鉄道員と身体一帝国の労働衛生」は、これまで歴史分析が行われてこなかった鉄道の労働衛生管理というテーマを扱った作品。

前半では第一次世界大戦から第2次世界大戦までの国鉄の労働衛生管理、後半では内地での手法を基にした国鉄の植民地鉄道における労働衛生管理の取り組みを詳述。

「技術を通じて社会の変化をうかがう」ことを表徴する、連結器、ブレーキなどの車両関連機器、レールや架線などの地上設備に加え、自動改札機や空調、トイレなどの輸送サービス関連機器など、それぞれの仕組みや関係する技術について、簡潔な記述と写真・図表を多用して分かりやすく解説している。

「誰かに教えたくなる道路のはなし」は、地図研究家である著者が、日本の道路の歴史と文化、建設・舗装などのテクノロジー、道路の実状を表とする様々なデータ、高速道路に関するさまざまな謎、逸話と車の歴外または関係などについて紹介した作品。

オールカラーの誌面で写真やマップ、解説図などを豊富に使用し、日本の道路の真の面白さ、奥深さなどをコンパクトに伝えている。

審査の結果、大正期から戦前期における東京圏の鉄軌道の技術変遷と、それが社会に与えた影響を詳細に明らかにし、都市計画や行政・事業者間の交通調整の実像にも言及するなど、都市圏鉄道の発展過程を独自の視点で整理した「都市鉄道の技術社会史」が受賞図書に決定した。

交通新聞 2020年3月31日